

学校だより

9月号（巻頭言）



嶺 鶴

令和8年9月1日
大田区南久が原 2-17-1
電話 (3750)2260
FAX (3750)2280

夏に蓄えた力を発揮しよう

校長 酒井 敬子

45日間の夏休みが終わりました。学校では、たくさんの方々のお力をいただき、「ラジオ体操」や「夏休みこども会」、「第三いきいき活動 避難所体験 体育館お泊まり会」や「夏休みわくわくサマースクール」を開催することができました。関係してくださった皆様、本当にありがとうございました。

こどもたちは、夏ならではの学びや体験によって、たくさん力を蓄えたことと思います。その力を発揮して、新学期からの学習や運動、そして行事に取り組んでくれることでしょう。こどもたちの2学期の活躍が楽しみです。

さて、夏休み中、我々教員も校内や校外の研修に参加し、指導力の向上に励みました。また、2学期以降どのように授業を改善していけばよいかを、4年生以上が取り組んだ「大田区学習効果測定」の結果をもとに検討し、実践していきます。本号では、このことについて大まかにお伝えいたします。

教科ごとの学習改善

国語：どの学年も、前年度に習った漢字の定着に向けて、意識的に文章を読み書きしたり、書く際は既習の漢字を使用したりします。

社会：資料を基に考え、表現する力の育成に向けて、文章や写真、図等を丁寧に読み取り、気付いたことや考えたことを文章で表現します。

算数：学年共通して、作図の力を高めます。また、円や平行四辺形、三角形等の図を用いての計算問題を習熟します。

理科：他教科に比べて学習内容の定着がさらに必要です。こども自らが考えた方法で実験・観察等に取り組み、結果の分析を確実に行って知識を定着させます。

授業改善の取組

○学習意欲の向上：本校では、4年生から5年生、5年生から6年生の経年における得点の伸び率（上昇値）が芳しくない傾向にあります。こどもたちが興味・関心をもつ導入の工夫や、「分かった、できた」を実感させる授業づくりのために、教員は教材研究に励みます。

○主体的で協働的な学びの実践

：教員主体の一斉授業の脱却を目指し、学習サイクルを定着させます。

導入（興味津々!）→本時のめあて確認（児童の考えを取り入れて）→解決の見通しをもつ→自力解決（まず自分でやってみる）→集団解決（ペア・グループ・全体）→本時のまとめ（児童の言葉を使って）→学習の振り返り

○ドリルパークの活用（タブレット学習）

：朝学習や授業内の余白時間を活用し、学習内容の定着や理解促進に向けてドリルパークを活用します。

2学期も「チーム東三」でこどもたちを育成してまいりますので、引き続き保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。